

特別講演 1

「冠動脈疾患治療の現状と今後の展望

～日本人のエビデンスを中心にして～」

京都大学医学部附属病院 循環器内科助教

今井 逸雄 先生

冠動脈疾患治療はバルーンのみによる冠動脈形成術からステントの登場そして薬剤溶出性ステントの登場により飛躍的に進歩している。また、ステント治療のアキレス腱であった再狭窄、ステント血栓症の問題もデバイスの進歩による改善している。そして来年には革新的なデバイスである生体吸収性ステントの日本での上市が予定されている。また、薬物療法もスタチンをはじめとする至適薬物療法の普及により冠動脈疾患の罹患率も改善している。インターベンションおよび薬物療法について Credo-Kyoto study での知見を中心に冠動脈疾患治療の現状と今後の展望を考えてみたい。